



学校だより

令和2年10月1日
大和市上和田832
☎046-267-2349



通知表「はぐくみ」の評価の仕方が変わります！

猛暑が続いた夏も終わり、ようやく秋がやってきました。今年度、残すところ半年になりました。学校では学習指導要領をもとに教育活動を展開していますが、今年度、新学習指導要領全面実施に伴い、評価の観点が変わります。

学習指導要領とは、全国の小学生が同じ水準で教育が受けられるように、「文部科学省が定めた教育課程の基準」のことです。10年に1度のペースで社会情勢の変化に応じ、改定されていきます。

さて、「学力」と聞くとどんなイメージをお持ちでしょうか。「いろんなことを知識として知っていること」をイメージする人が多いのではないのでしょうか。しかし、今はネットで検索すると知りたいことや調べたいことがすぐにわかる時代です。子供たちが社会に出る時は、ますますグローバル化が進み、AI や科学技術の進化が目覚ましい発展を遂げていると予想されます。そんな時代を生き抜いていかなければなりません。そのために必要な力を身に付けること、そのことが「今求められている学力」とされています。

また、今回の改定のポイントは、学校教育全般に亘って「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った「指導と評価を行っていくこと」となっています。

さらに、①「何を理解しているか」②「理解していること・できることをどう使うか」③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」を3つの柱としています。困難な事態に直面したとき、この3つの柱で得た資質・能力を活用し、仲間とともに協働しながら課題を解決していく力を身に付けるようにしていきます。



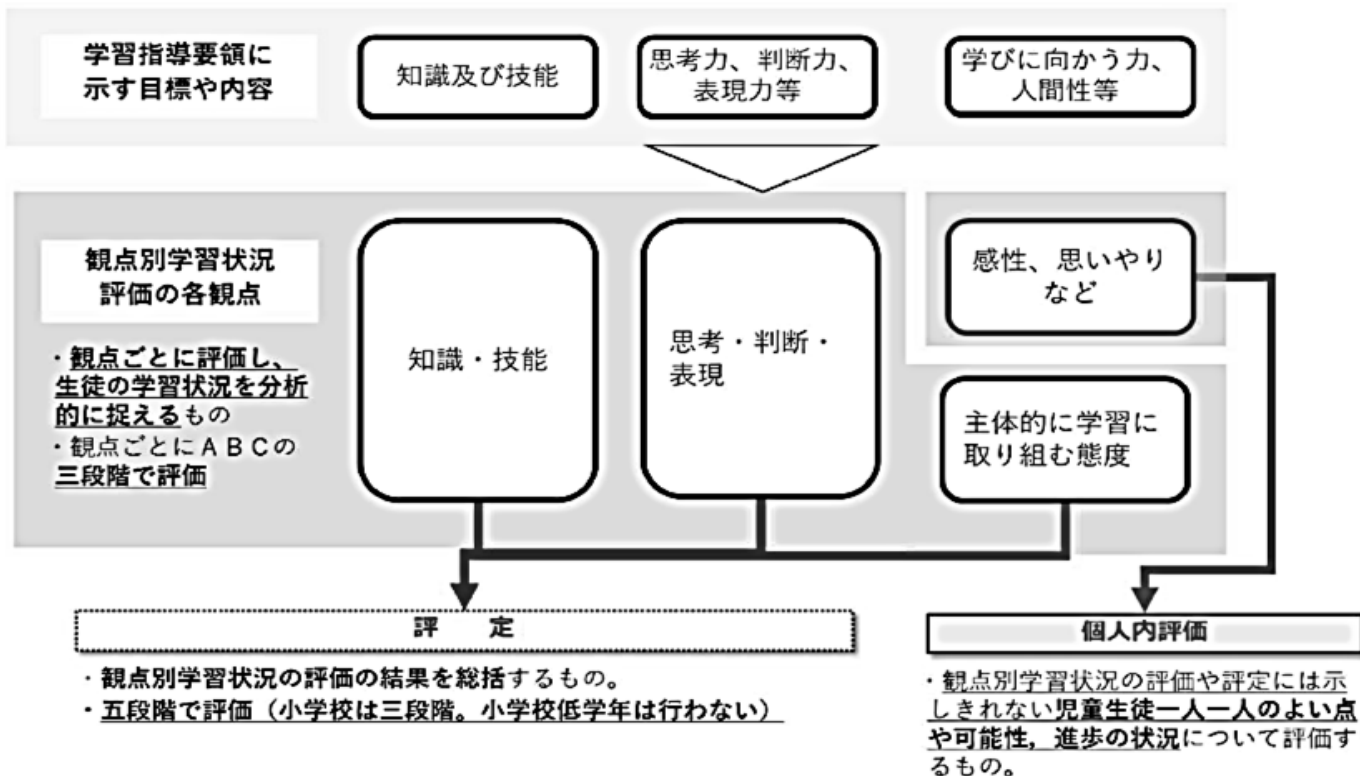
4 観点から 3 観点に変わります！

各教科の評価規準に照らし評価していきますが、評価の場面や方法としては、「授業中の取組みのようす」「発言やノートの質的な内容」「テストやプリント」「実技や作品」など、多方面からの評価資料をもとに「信頼性・妥当性の高い評価」に努めていきます。

- ◆知識・技能・・・ペーパーテスト、ノート、ワークシート、グループや学級における話し合い、観察、式やグラフに表現する方法、他の場面や生活場面でも適用できるか
- ◆思考・判断・表現・・・ペーパーテスト、ノート、ワークシート、グループの話し合い、作品の制作活動や表現活動
- ◆学びに向かう力・・・各教科の見方・考え方を働かせながら粘り強く取り組んでいるか、ねらい達成にむけて試行錯誤しながら自らの学習を自己調整しているか

各教科における評価の基本構造

- 各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



※この図は、現行の取扱いに「答申」の指摘や新しい学習指導要領の趣旨を踏まえて作成したものである。

○今年度は、分散登校後が終わった7月から学習が本格的にスタートしました。しかし、子供たちの感染防止の視点を考慮し、学習活動を制限しながら行っている状況です。そのため、学習内容が不十分な教科(音楽や体育)や、話し合い活動、対話をして深める活動などでは、評価資料や評価の場面が十分確保できない単元もありますが、お子様の成長の様子や学習の状況、これまでの頑張りをできる限りお伝えしたいと考え、通年での評価に変えたり、これまで行ってきた状況をもとに評価を行ったりしています。

○各教科「子供たちに身に付けさせたい力」や「指導事項」をもとに授業を組み立てますが、今年度はこれまでの4観点の評価から「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」3観点の評価になり、三段階の観点別評価となります。

○5・6年生に「外国語」が新設されて、上記の観点で三段階評価を行います。また、3・4年生に「外国語活動の記録」が設けられ、3つの観点を踏まえ学習の様子を記述でお知らせします。

○特別の教科「道徳」成長の様子及び、3年生以上の「総合的な学習の時間」については、上記の3観点を踏まえ記述をします。

○出席のようす欄は4月～9月末までと10月～3月末までに分けて状況をお知らせします。